

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人 雄和福社会

- ・特別養護老人ホーム花の家
- ・花の家短期入所生活介護事業所（短期入所介護予防事業）
- ・ケアハウス花の家
- ・デイサービスセンター緑水苑（第一号通所事業）
- ・花の家訪問介護事業所（第一号訪問事業）
- ・花の家居宅介護支援事業所
- ・雄和地域包括支援センター緑水苑
- ・認知症地域支援・ケア向上
- ・食の自立支援事業（配食サービス）
- ・郊外型はつらつくらぶ事業
- ・高齢者生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）

【法人総括】

介護報酬改定年度でもあり改定内容は、介護職員の処遇改善分が0.98%、その他の改定率は0.61%、全体で1.59%の引き上げとなったが、訪問介護だけが基本報酬引き下げとなり事業運営において厳しいものとなった。その他に三種類の処遇改善加算が一本化したことにより、当法人も処遇改善手当の見直しを行い、賃金改善も含めた処遇改善に取り組んだ。経営的には特養の年度末の入院者増による稼働率低下や、在宅サービスは年間を通して伸び悩んでいるため、人員配置や修繕計画の見直しを行い、緊急性の高い修繕事案を優先的に実施。厳しい状況の中で、秋田市から物価高騰に対する支援金が該当事業所へ支給されたことは資金収支の改善に繋がった。

新型コロナウイルスの感染症法上位置づけが緩和されたが、特養及びケアハウスで集団感染が11月末から12月末にかけて発生。感染力が強くほとんどの利用者が罹患。嘱託医の指示により対応し、幸い重度化する利用者は少なかったが、施設内療養に対する公的な援助が廃止されたことで経営的に影響があった。

法人設立20周年を迎えたが、社会福祉法人を取り巻く状況は年々厳しいものである。厳しいなかでも我々は地域住民の支援があってこそ法人運営が出来ていることを改めて認識した。

【重点事項】

(1) 経営基盤の安定

特養については入退所が多かったのに加え、年度末には入院者も増加。ショートの間床利用などでどうにか維持した半面、在宅部門は厳しい状況が続いている。コスト削減のため再び新電力への切り替えや、緊急性が低いことから予定していたデイサービスセンター電柱工事を延期。その他の備品購入についても緊急性の高いものを優先。

(2) 人材確保・自己研鑽

介護人材の確保が難しく、ハローワークの他に紹介手数料はかかるが人材紹介会社も利用し確保に努めた。また処遇改善加算の改定に合わせ該当事業所職員の処遇改善手当を見直し。該当しない事業所職員にも法人独自の処遇改善手当を創設。賃金改善に努めた。

(3) 事業継続計画と災害時応援協定

事業継続計画(BCP)の訓練、研修に基づき、事業継続計画(BCP)の見直しを行った。災害時に備え社会福祉法人河辺ふくし会と災害時応援協定を締結。

(4) 法人設立20周年記念式典を開催

当法人の役員、職員他に、当法人運営にかかわる各種委員の方々を招いて記念式典を開催。あらためて地域住民の皆様の支えにより法人運営が出来ていることを再認識した。

法人運営（理事会・評議員会等）

1 理事会（計3回）

第1回 令和6年5月13日（書面決議）

決議事項 特別養護老人ホーム花の家運営規程の一部改正の件
花の家短期入所生活介護事業所運営規程の一部改正の件
給与規程の一部改正の件
臨時職員及びパート職員の就業に関する規程の一部改正の件

第2回 令和6年6月10日

決議事項 令和5年度事業報告の承認の件
令和5年度決算報告の承認の件
令和6年度定時評議員会の開催に関する件

第3回 令和7年3月17日

決議事項 令和6年度第一次資金収支補正予算（案）の件
令和7年度事業計画（案）の件
令和7年度資金収支予算（案）の件
育児・介護休業等に関する規程の一部改正の件
令和6年度臨時評議員会の開催に関する件

2 評議員会（計2回）

定時評議員会 令和6年6月25日

決議事項 令和5年度決算報告の承認の件

臨時評議員会 令和7年3月22日

決議事項 令和6年度第一次資金収支補正予算（案）の件
令和7年度事業計画（案）の件
令和7年度資金収支予算（案）の件

3 監査会（計2回）

日時 令和6年5月28日

事項 令和5年度事業報告について
令和5年度計算関係書類及び財産目録について

日時 令和6年10月30日

事項 令和6年度上半期事業報告について
平成6年度上半期計算関係書類について

4 役員研修

(1) 令和6年度秋田県経営協セミナー（前期）

期 日 令和6年8月9日

場 所 秋田キャッスルホテル

参加者 丸山理事長

- (2) 秋田市関係各課・室との懇談会
期 日 令和7年2月6日
場 所 アキタパークホテル
参加者 丸山理事長

5 運営会議 (毎月1回開催)

6 法人の委員会

- (1) サービス向上委員会 (計2回)

令和6年5月31日

令和5年度後期の苦情に関する状況報告と意見交換

令和6年11月8日

令和6年度前期の苦情に関する状況報告と意見交換

- (2) 衛生委員会 (計12回)

産業医を交えて安全管理や法人職員の健康管理等について委員会を毎月開催。
年1回の職場研修会も開催。

- (3) 広報委員会

広報発行*雄和地域全戸配布、関係機関や福祉施設等に送付

令和6年8月1日 「花の家だより」40号発行 2,100部

令和7年2月6日 「花の家だより」41号発行 2,100部

7 その他

秋田市指導監査 令和6年7月23日

7 職 員 (R7年3月31日)

職 種	特養	短期 入所	ケア ハウス	通所 介護	訪問 介護	居宅介 護支援	包 括 支 援 セ ンター	合計
管 理 者	1		(1)	1	1	1	1	5 (1)
事 務 員	3		(1)	0	0	0	(1)	3 (1)
相 談 員	1		1	1 (1)	0	0	0	3 (1)
介 護 職 員	27		1	4	1 (1)	0	0	33 (1)
看 護 職 員	5		0	2	0	0	0	7
機 能 訓 練 指 導 員	(1)		0	(2)	0	0	0	(3)
管 理 栄 養 士	1		(1)	0	0	0	0	1 (1)
主 任 介 護 支 援 専 門 員	1		0	0	0	3 (1)	1	5 (1)
介 護 支 援 専 門 員	0		0	0	0	0	0	0
保 健 師	0		0	0	0	0	(1)	(1)
社 会 福 祉 士	0		0	0	0	0	1	1
認 知 症 地 域 支 援 推 進 員	0		0	0	0	0	0	0
技 能 員 等	5		1	1	0	0	2 (1)	9 (1)
宿 直 員	3		0	0	0	0	0	3
登 録 ヘルパー	0		0	0	2	0	0	2
嘱 託 医	1		0	0	0	0	0	1
合 計	48		3	9	4	4	5	73
※参考 R6年3月	47		3	10	5	5	7	77

・ () 兼務職員

・ 令和7年3月末

介護職の介護福祉士取得率 (特養 100%、通所 75%、ヘルパー50%)

法人職員の介護支援専門員資格保持者

(特養6名、デイ2名、居宅4名、包括3名、)

特別養護老人ホーム花の家（短期入所生活介護事業所含む）

【総括】

稼働率95.5%と目標数値の98%に届かなかった。入所は23名、退所も23名で開設以来最多となった。空床期間短縮を念頭に入退所調整した。空床期間は短期入所の利用で減らすことが出来た。入院者数も昨年度より多く、延べ31名だった。入院の理由として誤嚥性肺炎、心疾患や元々の基礎疾患の悪化によるものである。退所者23名のうち、施設での看取りの方が17名、医療機関で亡くなった方、転院した方が6名と看取りの方が目立つようになった。

新型コロナウイルス関連では11月27日利用者陽性判明し、集団感染となった。12月28日終息となった。感染者は利用者55名、職員14名の計73名となった。集団感染により、一時面会を中止したがすぐに再開した。面会を望む家族も多く、面会の有無が施設を選択する条件の一つになりつつあり、直接面会の機会はとても大切であると実感している。現在も予約制で直接の面会を継続している。

短期入所事業は1日平均6.8人（稼働率97.6%）で目標数値1日平均6.5人を達成することが出来た。長期利用者の受け入れと特養の退所や入院による空床を利用し、稼働率を維持することが出来た。今後もより稼働率の安定に努めていきたい。

【重点事項】

（1）ご利用者に寄り添ったサービスの提供と介護職員の負担軽減

ご利用者やご家族のご意向を確認し、サービス担当者会議を定期的に年2回開催した。その他にも介護保険認定の更新や退院時、状態悪化時にも随時開催した。アセスメント、モニタリングを行い、ケアプラン作成や各部門との連携、協同によりご利用者に寄り添った支援へ繋げる事が出来た。新規入所の際にはご利用者やご家族に丁寧な説明を心掛け、不安の無いように新規入所に繋げることが出来た。

終末期における支援として、ご利用者及びご家族の要望に沿えるように出来る限り対応した。今までの生活を変えることなく、他のご利用者がいる中で見守りを行い、穏やかな最期を迎えられるように支援することが出来た。ご家族への支援として面会時間外でもいつでも面会に応じる事や宿泊準備を整えていることをお伝えし、安心して頂けるように努めた。感染症の最中でも環境を整え、面会出来るように努めた。最期に立ち会われたご家族からは暖かい言葉を頂戴した。ご利用者だけでなくご家族に対しても身体的、精神的負担の軽減に努める事が出来た。

日々の業務の中でご利用者の体調が普段と違いはないか観察に努めた。状態にあった判断を行い他職種と連携した対応が出来た。

科学的介護情報システム（LIFE）については、毎月情報を提出することが出来た。また、フィードバックをサービス担当者会議や月例報告会で活用し、よりよい支援につなげることが出来た。

介護記録を電子化については、当初は戸惑いも見られたが、慣れるにしたがって記録の効率化とスムーズな情報の共有化に繋げることが出来ている。日々見直しし、今後もより業務の改善に努めていく。

（2）事故防止と感染症対策に努める

委員会でヒヤリハット・事故報告を基に事故を検証、再発防止に努めた。特養で骨

折事故が3件発生。また、転倒し、頭部をぶつけたことによる急性硬膜下血腫もあった。その後は行政機関や加入している保険会社に速やかに報告。また、医療機関とも連絡調整を行った。

新型コロナウイルスの集団感染が発生し、罹患者は利用者、職員合わせて計73名となった。今後もマニュアルの見直し、内部研修や申し送り等で職員に意識付けや対応力の強化に努めていきたい。

(3) 専門職としての責務と人材育成

研修はオンラインで実施しているものが多くなり、タブレットやWi-Fi等環境を整え、積極的に研修参加を促している。その他にも外部講師を招いての身体拘束・虐待の研修や施設内で毎月の職員会議での研修を開催した。職員としての質の向上に取り組むことが出来た。

医療的ケア（痰の吸引と経管栄養）では、安全に実施するために委員会での確認を行った。実地研修については時間をつくって行うことが出来ており、未修了者の修了を目指している。来年度も新たな職員の実地研修を行っていきたい。

今後も看取り介護を希望される方が増えていく中で、ご利用者の状態観察や引き継ぎが重要な部分を占めていく為、職員間での指導や情報交換を密に行っていきたい。

職員自ら専門性の向上を目指し、ご利用者、ご家族からも信頼される職員となるように努めていきたい。

(4) 非常事態発生時の危機管理に努める

防災訓練は年間計画通りに実施。夜間想定避難訓練は消防署員が立会いはなかったが、緊張感を持って取り組むことが出来た。土砂災害想定避難訓練では体調不良者を除く全利用者を1次避難場所である交流スペースへの避難誘導を行った。実際に誘導してみて待機スペースの状況などを確認することができ、次のステップに繋がる訓練となった。また、近隣自治会からも参加してもらうことができ、協力体制を築くことが出来た。BCPに基づきより実践的な訓練を行って話し合いを行い見直している。

(5) 稼働率の安定を図る

今年度は退所者数23名、入院者数延べ31名と前年度より多かった。新規入所までの期間短縮を意識しながら受入れを進めた。平均空所日数は昨年よりも長くなったが、空床を短期入所で利用することで空床期間を減らすよう努めた。しかし、入院者数が多く、入院期間も長くなり、年間稼働率95.5%と目標数値(98%)には届かなかった。

ショートステイは1日平均6.8人(稼働率97.6%)、新規にご利用者22名との契約締結が出来た。長期利用と特養の空床利用により利用日数が増え目標数値6.5人を達成することが出来た。

今後ご利用者一人ひとりの観察の充実を図り職員間の連携を密にしたサービス支援に努め、稼働率の安定を図りたい。

【各部門総括】

(1) 相談員・介護支援専門員部門

令和6年度は23名の利用者が退所された。その内施設で看取った方は17名であった。施設での看取りを希望される方には看取りの指針の説明、看取りプランを作成し、本人や家族の意向に沿えるように支援を行った。亡くなられた後には弔問に赴き施設生活の様子を伝える等、死後のケアとして家族支援に努めた。また、偲びのカンファレンスを開催して振り返りを行い、より良い支援への糧としている。

新規入所は家族や他事業所と連絡調整を密にしてスムーズな入所に繋がるように努めた。入所前に事前訪問、アセスメント実施し、本人、家族の意向を確認している。施設入所についての説明は安心してもらえるように懇切丁寧に行っている。

入所されている利用者のケアプランについては本人へのアセスメント、各専門職の意見を聞いて作成している。サービス担当者会議は6ヶ月に1回と退院時や更新・区分変更等の必要時に開催している。モニタリングは3ヶ月に1回実施した。サービス担当者会議は家族の参加が難しい場合は意向を伺い、職員のみで開催した。

ボランティア等の受け入れは感染対策を行い、希望に応じて受け入れをした。交流スペースに地域のサークルの手芸や利用者家族の作品を展示し、利用者や来客者に関心を持ってもらうことができた。

面会は予約制で、時間、場所に制限を設け、感染症に注意を払って実施した。

ショートステイの受け入れは居宅の介護支援専門員と連絡調整している。

特養		ショートステイ	
入所割合平均：稼働率 (%)	95.5%	年間平均 (人)	6.8人
担当者会議/プラン策定	58回 /148件	担当者会議/プラン策定数	35件
入所者 (人)	23名	新規契約者数	22人
退所者 (人)	23名		
平均要介護度	4.1		

(2) 介護部門

施設サービス計画書に沿って支援を行い、利用者の状況に合わせて変更し対応したが、援助内容の変更が周知されていないことがあった。申し送りにより統一した支援を行うよう努めた。介護技術や方法、認知症の理解についても相互に確認し、ご利用者のペースに合わせた対応を心掛けた。しかし落ち着かない利用者の対応に気持ちに余裕がなくなり、言葉遣いが荒くなったり、声掛けが不足してしまうことがあった。支援記録については電子化により記録時間の短縮と情報の共有も出来るようになってきている。日々見直しを行いながら、より効率的な記録と情報共有をスムーズに出来るよう改善していきたい。

行事に関してはコロナ前のように演芸慰問も行われたり、敬老式ではご利用者家族を招待し、行うことが出来た。また、施設内でご利用者が楽しめるよう居室内や廊下等の装飾や行事をブロック担当制にし、全ブロック共通で一緒に楽しむことが出来るよう工夫をして行うことが出来た。

今年度も骨折事故が起こってしまった。また誤嚥による事故も起きてしまった。検証等を都度実施し、研修会や介助方法の見直しもを行い、再発防止に努めた。事故・ヒ

ヤリハット報告書の回覧を早くし、周知するよう努めている。

喀痰吸引、胃瘻による経管栄養等の医療行為を安全に実施するために委員会等で確認を行った。今年度も実地研修を継続してすすめており、来年度も新たな職員に研修を行っていききたい。

口腔に関して、口腔の健康状態の評価及び情報共有書を毎月提出し、定期的に歯科医による研修も行っている。

(3) 医療部門

令和6年度は新規入所者23名、退所者23名であった。花の家を終の棲家とし、看取りとなられた方は17名、入院先の病院で亡くなられた方は4名、入院先から転院された方が4名だった。日頃から入所者の状態把握に努め、必要時は嘱託医や他医療機関の受診を行い急変などに対応した。

年間を通しノロウイルスや食中毒を発症することなく過ごせた。新型コロナウイルスについては、9月に4名の罹患者があった。11月には集団発生があり、感染者は利用者55名、職員14名の計73名となった。終息まで1ヶ月を要した。引き続き感染防止に努めたい。

ご利用者、ケアハウス入居者の健康診断を実施し、嘱託医の指示のもと要精査者の再検を行い内服開始や経過観察をしている。職員の健康診断では産業医からの助言も受け、要精査者は受診を勧め、その結果の把握にも努めた。

(4) 事務部門

法令に従い理事会及び評議員会を開催することが出来た。決算処理については会計基準に従い適切に処理を行い、現況報告・計算書類等についても財務諸開示システムを用いて遅延することなく公表し、法人運営の透明性を図った。

予算執行状況の把握・分析をより具体的に行えたことで各事業所の収入増及びコスト削減の意識が高まり、各事業所・各部門との連携をより密にし、業務の円滑化を図ることが出来た。

(5) 給食部門

超高齢者が増えている現状において誤嚥性肺炎のリスクも高くなる中、迅速な食事形態、食事量の変更と補助食品の利用で誤嚥や事故防止に努めた。個々の栄養マネジメントを行い、ご利用者の食べることへの意欲向上に努めるとともに、身体機能、生活機能の維持を図るように努めた。新型コロナウイルス感染症発生時は献立を変更することで残食量の低下に努めた。

害虫駆除月1回毎、グリストラップ、排水溝清掃3ヶ月毎に実施し、休憩室も当番制で掃除を行い、衛生保持に努めた。厨房から食中毒やノロウイルス等出すことがなかった。

11月17日に災害訓練食の日を設け実施。ご利用者及び職員に意識付けが出来た。備蓄品を消費期限内に随時使用し、更新した。

毎日の食数確認で定数は提供出来たが、付け間違いや付け忘れ、髪の毛等の異物混入が3件あった。利用開始や終了、変更時は電話連絡のみにせず必ず書面での連絡をすることで全員に周知することができた。

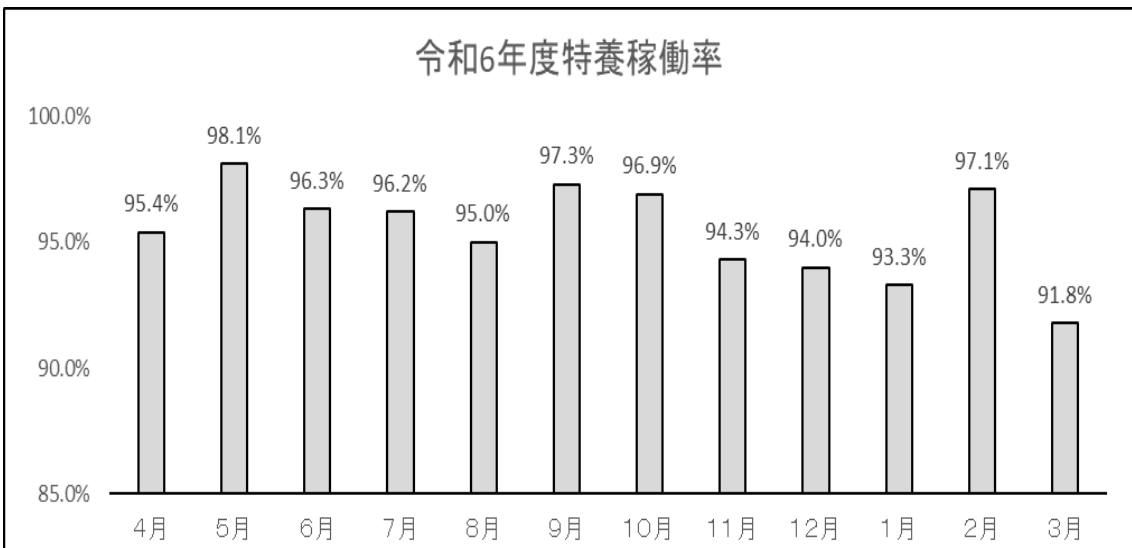
施設での看取りを希望される利用者ご利用者が増える中において、危険なく可能な限りでの希望を聞き提供に努めた。意思疎通の取れない方への満足度の図り方につい

ては家族にも協力願い、探求心を持って取り組んでいく。

【年間資料】

(1) 特養入所利用状況及び入退所状況(入所定員 58名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数(人)	55.3	56.9	55.8	55.8	55.1	56.4	56.2	54.7	54.5	54.1	56.3	53.2	644.5	55.4
稼働率(%)	95.4%	98.1%	96.3%	96.2%	95.0%	97.3%	96.9%	94.3%	94.0%	93.3%	97.1%	91.8%	95.5%	95.5%
延在床数(人)	1,661	1,765	1,676	1,730	1,709	1,693	1,743	1,641	1,691	1,679	1,578	1,651	20,217	1684.7
入院者数(人)	4	2	2	2	3	3	2	2	2	2	1	6	31	
退所者数(人)	6	3	1	2	2	0	1	3	4	0	0	1	23	
入所者数(人)	6	1	4	1	2	1	0	1	3	3	0	1	23	



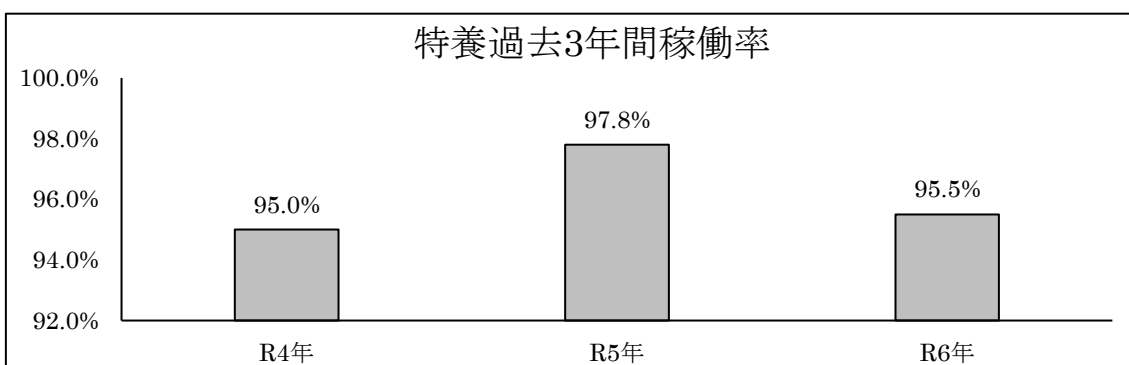
(2) 空床状況

	R4 年度	R5 年度	R6 年度
入院	682 日	234 日	400 日
外泊	0 日	0 日	0 日
退所による空床	266 日	218 日	553 日
合計	948 日	452 日	953 日
新規入所までの日数	12.7 日	15.2 日	22.5 日

※R6 年度ショートステイ空所利用 225 日

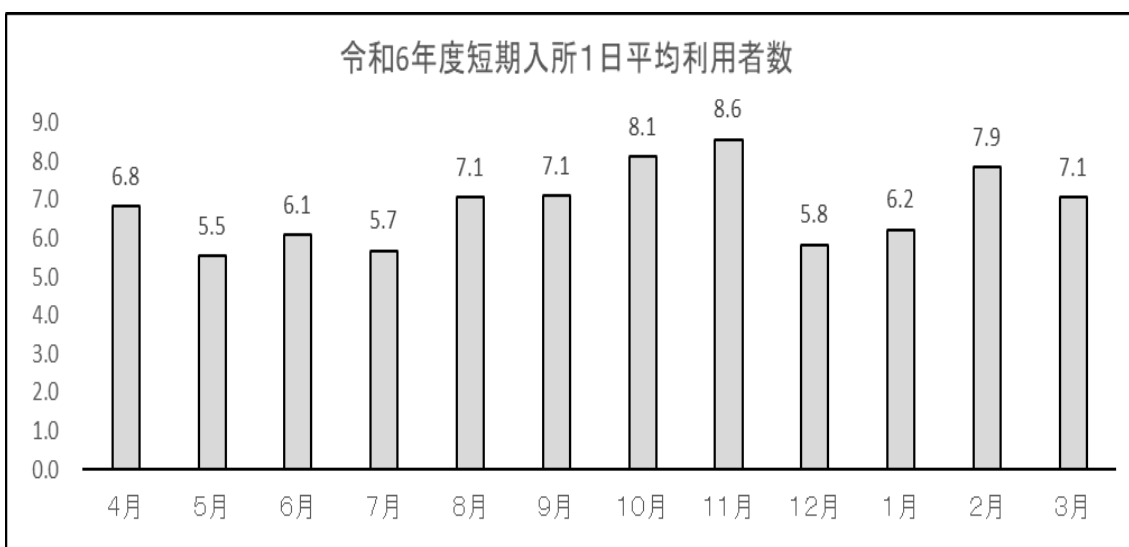
(3) 特養過去3年間稼働率 *R4年3月1日から定員変更(50名から58名へ)

	R4年度	R5年度	R6年度
人数	55.3	56.7	55.4
稼働率	95.0%	97.8%	95.5%
退所	19	15	23
入所	21	14	23



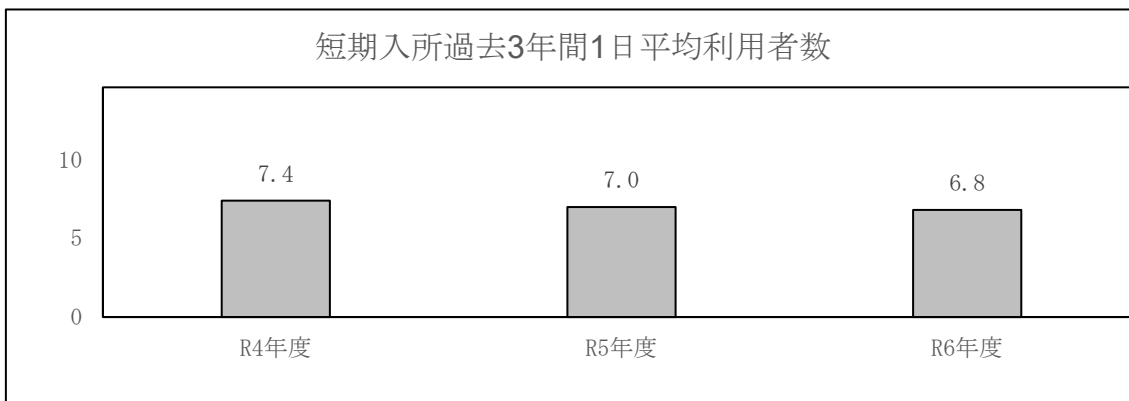
(4) 短期入所利用状況(定員7名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
延べ人数(人)	205	172	183	176	219	213	252	257	181	193	220	219	2,490	206.5
1日平均(人)	6.8	5.5	6.1	5.7	7.1	7.1	8.1	8.6	5.8	6.2	7.9	7.1	/	6.8
稼働率(%)	97.6%	79.3%	87.1%	81.1%	100.9%	101.4%	116.1%	122.4%	83.4%	88.9%	108.4%	100.9%	/	97.6%
新規契約(人)	4	1	3	1	2	1	3	0	2	1	3	1	22	



(5) 短期入所過去3年間1日平均利用者数及び稼働率
 *R4年3月1日から定員変更(15名から7名へ)

	R4年度	R5年度	R6年度
1日平均利用者数	7.4	7.0	6.8
稼働率	104.6%	100.0%	97.6%



(6) 特養入所契約者年齢別人員 (R7.3.31現在)

在籍数	年齢区分					平均年齢	
	65~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳~		
男	9人	0	1	5	3	0	85.7歳
女	48人	1	3	18	24	2	89.7歳
合計	57人	1	4	23	27	2	89.1歳

最高年齢 女性 102歳3ヶ月 男性 92歳11ヶ月

最低年齢 女性 68歳11ヶ月 男性 72歳1ヶ月

(7) 要介護度別人員 (R7.3.31現在)

要支援		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	平均要介護度
0	0	0	0	13	28	16							
男0	女0	男0	女0	男0	女0	男1	女12	男5	女23	男3	女13	57	4.1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.8%	49.1%	28.1%							

(8) 地域別入所状況

入所前住所	雄和地区	河辺地区	旧秋田市	その他	合計
R7年3月31日現在数(人)	46	2	7	2	57

(9) 入退所状況

退所事由 (人)	転院	病院で死亡	施設で死亡	在籍期間	1年未満	1~5年未満	5年以上
	3	3	17		8	15	0
入所前の 状況(人)	在宅(シヨート)	老健・グループホーム等	病院	入所時 要介護度	要介護3	要介護4	要介護5
	16(16)	5	2		6	11	6

(10) 入所待機者状況 (R7.3.31 現在)

男性	25名	女性	48名	合計	73名
----	-----	----	-----	----	-----

(11) 委員会実施状況

委員会名	開催数
研修委員会	3回
行事企画委員会	6回
給食委員会	4回
感染症対策委員会	6回
排泄・褥瘡防止委員会	4回
防災対策委員会	6回
サービス改善委員会	5回
事故防止検討委員会 (発生事故検証会)	5回 (10回)
入所調整委員会	2回
医療的ケア対策推進委員会	6回
身体拘束適正化委員会	5回
虐待防止検討委員会	5回
栄養・口腔衛生委員会	3回
広報委員会	3回

(12) 内部研修会(職員会議時)

開催月	研修内容
4月	法令遵守と事業方針について
6月	事故防止について
7月	食中毒について
8月	身体的拘束等適正化・虐待防止について
9月	感染症BCPについて
10月	防災・緊急時体制・BCPについて
11月	看取りについて
1月	不適切なケアを予防するための取り組みについて
3月(施設内 研修)	認知症について、不適切なケアを予防する ための取り組みについて、褥瘡について、命 にも関わる高齢者の誤嚥、自己評価表につ いて

(13) 会議・行事・ボランティア等の状況

	職員 会議	月例 報告	会議 (介護職)	行事・ボランティア等	行事食
4 月	24 日	18 日	各ブロック会議 チーフ会議	夜勤職員検診 (5日)	開園記念祝い膳 (1日)
5 月	22 日	21 日		協議体花植えボランティア (20日) 聖霊高校清掃等ボランティア (24日) サービス向上委員会 (31日)	母の日祝い膳 (12 日)
6 月	26 日	20 日		理事会 (10日) 評議員会 (25日) 民協草刈りボランティア (19日)	父の日祝い膳 (16 日)
7 月	24 日	18 日		七夕まつり (3日) 社会福祉法人雄和福祉会設立20周年 記念式典・祝賀会 (11日) 入所者一般検診 (4日) 入所者結核検診 (16日) チビッコボランティア (30日) 夜間想定避難訓練 (31日)	七夕祝い膳 (7日)
8 月	21 日	20 日			精進膳 (13日)
9 月	25 日	19 日		花の家敬老式 (18日) 職員健診 (19日)	敬老祝い膳 (18日)
10 月	23 日	22 日		総合避難訓練 (16日) 法人中間監査 (30日)	収穫の祝い膳 (10 日)
11 月	20 日	19 日	各ブロック会議	花の家秋の茶話会 (13日)	にぎり寿司 (13日) 防災訓練食 (17日)
12 月	25 日	19 日	チーフ会議		クリスマスランチ (25日) 年越し祝い膳 (31日)
1 月	22 日	21 日		新春の集い (29日)	正月祝い膳 (1日) にぎり寿司 (21日)
2 月	19 日	18 日	ブロック会議 チーフ会議		節分祝い膳 (3日)
3 月	25 日	18 日		理事会 (17日) 評議員会 (26日)	ひな祭り祝い膳 (3日)

(14) 実習受入

日本赤十字秋田短期大学 介護学科実習生1名 (令和6年9月9日～9月13日)

(15) 介護サービス情報の公表 令和6年11月26日

ケアハウス花の家

【総括】

令和6年度は入居6名、退居5名だった。退居の主な理由は高齢に伴う認知機能及び日常生活動作の低下による他施設入所や体調不良による入院等が多くを占めている。新規入居者の傾向として高齢による独居生活に大きな不安を抱えている方が多い。中には豪雨災害で自宅を失い親族宅に身を寄せて入居待ちをしていた方もいる。本来ケアハウスは概ね自立した生活が可能な方の施設ではあるが、近年の高齢独居世帯の急増や施設入所待ちの長期化等の影響もありケアハウスでの入居が難しい方からの申込みや問い合わせが多くなっている。

各行事や活動については、花の家施設全体行事に加え、ケアハウス入居者を対象とした園芸活動や外出ドライブ等、生きがいに繋がるような活動が実施できて多くの入居者から喜びの声が聞かれた。

残念なことは、体調不良等による入院者が多く（5名）それに伴う医療機関や家族、関係機関との対応に多少苦慮した。また11月末から12月上旬にかけて新型コロナの集団感染（10名）が発生した。幸いにも入院などの重症化した方はおらず嘱託医や入居者家族の協力を得て収束することができた。

今後も入居者一人一人の1日を大切に、多くの方が笑顔で過ごせるような支援を目指したい。

【重点事項】

（1）充実した日常生活への支援

入居者からの要望もあり外出ドライブや園芸活動など生きがいを感じられるような活動を多く取り入れ喜んでもらった。園芸活動ではケアハウス菜園で枝豆、スイカ、サツマイモ栽培を試みた。高齢等により畑作業ができる方は年を追うごとに減少傾向にあるが畑の中では年齢を感じさせない生き生きした姿が印象的だった。収穫後は女性入居者を中心に調理、試食会を行い収穫の喜びを味わうとともに入居者同士の親睦を深めることができた。

日々の余暇活動については、健康体操や茶話会、しりとり、折り紙、ぬり絵、パズル等の活動を中心に行い充実した日常生活に繋げることができた。

また、最近では自分の生活リズムで過ごしたいという方もおり茶話会などには参加せず自室でラジオを聴きながら脳トレを楽しみ、時間を決めて歩行訓練などを行っている。

（2）生活環境の整備について

施設内の衛生管理、温度湿度管理を徹底し入居者が快適で安心できる環境作りに努めた。また、個々の居室内の冷蔵庫の管理等の声掛けや冷暖房の適切な使用、定期的な換気等の声掛け支援を継続的に実施した。廊下の壁を活用し季節の装飾や外出レクや余暇活動時の写真を掲示し思い出や季節感を味わってもらえるような工夫を継続した。

（3）感染症対策及び健康観察の充実について

入居者の平均年齢は89.4歳（3月末現在）と高齢化しており半数以上が90歳以上であることから日常の健康管理が重要とされる。今年度も夜間や早朝等、職員不在時

に体調不良になったケースもあり、救急外来受診等の対応をした。また、ほとんどの入居者が訪問介護サービスや通所サービス、特殊寝台レンタル等の介護保険サービスを利用しながらケアハウス生活を維持しているのが現状である。そのため介護支援専門員及び介護保険事業所との情報交換を密に行い、入居者の状態管理に繋げている。日々の健康管理サービスとして週3回のバイタル測定と月に1度の体重測定を実施し健康状態把握に努めた。また入居者の受診日等を把握し、緊急時や家族対応が難しい入居者については通院介助を実施し入居者、家族の安心と信頼構築に繋げることができた。万が一体調不良によりケアハウス生活が困難になった場合には、ご本人及びご家族、介護支援専門員等と相談のうえ、ご本人が安心して過ごすことができる介護保険施設等への入所調整等を行った。

新型コロナの集団発生があったが、感染症対策として雄和もてぎクリニックの協力を得てインフルエンザウイルスのワクチン接種を実施した。入居者にも手洗いうがい、マスク着用等、感染予防対策への理解、協力をいただき健康的な生活に繋がった。

(4) 災害等に備えた危機管理体制の構築について

近年多発傾向にある自然災害や火災等に備え事業継続計画（BCP）に基づき避難訓練等の実施し入居者の安全な生活に繋げる体制を充実させた。また職員を対象とした緊急連絡訓練を実施し緊急時に備える体制構築をした。

1 年間行事活動報告

月	日	行事名等	内容・場所	参加者
4月	16日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	17日	外出レク（花見）	新屋～牛島～椿台	4名
	23日	〃	日本国花苑～大瀧村菜の花ロード	5名
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	11名
5月	2日	園芸活動	ケアハウス菜園準備、枝豆播種	4名
	10日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	22日	園芸活動	ケアハウス菜園（畝作り、定植）	8名
	29日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	4名
	31日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	10名
6月	5日	園芸活動	サツマイモ苗植え	8名
	19日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名
	27日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	10名
7月	4日	一般検診	検診車	
	9日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	16日	結核検診	検診車	
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	10名
	31日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	6名

8月	13日	園芸活動	枝豆収穫、調理、試食会	12名
	21日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	23日	園芸活動	スイカ収穫、試食会	12名
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名
9月	10日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	13日	園芸活動	サツマイモ蔓返し、除草	6名
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名
10月	3日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	9日	外出レク	ダリア園見学	3名
	16日	〃	中ノ沢方面ドライブ	7名
	17日	園芸活動	柿収穫、干し柿作り	9名
	18日	〃	サツマイモ収穫	8名
	22日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	7名
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	11名
11月	1日	干し柿試食会		10名
	8日	予防接種	インフルエンザワクチン	
	15日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	30日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	11名
12月	11日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	18日	クリスマス忘年会	食堂 (折詰、寿し、抽選会)	13名
	27日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	4名
	27日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	10名
1月	7日	縄ない体験	ヤマハゲけら作り	4名
	17日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	2名
	31日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認)	10名
2月	12日	買い物+代行	ジェイマルエー御所野	3名
	21日	焼き芋試食会		8名
	28日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認)	10名
3月	5日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	4名
	26日	買い物+代行	御所野スーパーセンターアマノ	5名
	27日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂 (次月予定確認等)	8名

2 全体行事、その他

月	日	行事名	内容・場所
7月	3日	七夕行事（全体行事）	七夕行事と演芸（民謡）を楽しむ
7月	31日	避難訓練（夜間想定）	夜間の火災を想定した避難訓練に参加
9月	18日	敬老式（全体行事）	敬老式と演芸（民謡等）を楽しむ
10月	16日	総合避難訓練（BCP 訓練） （土砂災害想定）	土砂災害を想定した避難訓練に参加
11月	13日	秋の茶話会（全体行事）	交流スペースで茶話会（スイーツ）を楽しむ
1月	29日	新春の集い（全体行事）	ナマハゲと神主、巫女に扮した職員が訪問し伝統行事を楽しむ

○月～金の活動 健康体操 10:00～（民謡音楽に合わせて）
 茶話会 10:30～（しりとり、塗り絵、脳トレ等）
 余暇活動 15:00～（トランプ、パズル、オセロ等）

3 入退居及び入居者状況

(1) 入退居状況（入居6名、退居5名）

入居	6/1 (女性1名)	7/1 (女性1名)	9/30 (女性1名)	12/1 (女性1名)	3/21 (男性1名) (女性1名)
退居	5/28 (女性1名)	6/6 (男性1名)	9/15 (男性1名)	11/19 (女性1名)	3/3 (女性1名)

(2) 年齢別・性別の状況（R7.3.31 現在）

区分	男性	女性	計	割合
60～69歳	0	0	0	0.0%
70～79歳	0	0	0	0.0%
80～89歳	0	7	7	50.0%
90歳以上	2	4	6	42.9%
100歳以上	0	1	1	7.0%
計	2	12	14	
平均年齢	92.0歳	89.0歳	88.4歳	

4 過去3年間状況

(1) 在籍数（各年度末日現在）

	男性	女性	計
R4年度	2	10	12
R5年度	3	10	13
R6年度	2	12	14

(2) 介護認定状況（各年度末日現在）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R4年度	0	1	4	6	2	0	0	0
R5年度	1	1	3	6	2	0	0	0
R6年度	0	4	1	5	4	0	0	0

(3) 年齢別・性別状況（各年度末日現在）

		60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	100歳以上	合計	平均
R4年度	女	0	2	3	4	0	10	86.3歳
	男	0	0	3	1	0	2	
R5年度	女	0	1	3	6	0	10	88.6歳
	男	0	1	0	1	0	3	
R6年度	女	0	0	5	5	1	12	89.4歳
	男	0	1	0	2	0	2	

(4) 事故・ヒヤリハット件数

	R4年度	R5年度	R6年度
事故・ヒヤリハット	2	1	0
苦情	0	0	0

5 その他

(1) 軽費老人ホーム事務費補助金当初交付申請（4月）

- 〃 概算払請求（6月、7月、11月、1月）
- 〃 変更交付申請、請求（2月、3月）
- 〃 実績報告（3月末）

(2) 軽費老人ホーム利用状況報告書（毎月）

(3) サービス担当者会議（6月、12月及び新規入居時）

(4) 職員会議、運営会議、月例報告会（毎月）

(5) 委員会（定期＋必要時）

(6) 見学者対応（5件）、問い合わせ等（55件）

(7) サービス向上委員会 5月、11月

(8) 秋田市指導監査 7月23日

デイサービスセンター緑水苑（第一号通所介護）

【総括】

令和6年度は新規契約者が21名、デイサービスを体験利用された方が12名、その内8名の方と契約を結んだ。年間の平均利用者数が19.8名と目標値の24名を上回ることが出来なかった。その要因としては、ご利用者または主介護者による疾病等により医療機関や他の介護施設を利用され、利用登録から外れるケースがある。新規契約者は週1, 2回から利用を開始することが多く、複数回利用されていた方の穴を埋めきれなかった。ご利用者が自分の身の回りのことを出来ているうちは良いが、疾病等により在宅での介護負担が大きい場合には、短期入所施設や老人保健施設入所など施設傾向が高まる。また、90歳以上の超高齢者が健康ではつらつとされているため、利用登録に結び付かない。利用者人数を維持し継続していくことは容易ではなく、ご利用者確保の難しさを毎年痛感している。

ご利用者確保の取り組みとしては、雄和地域の病院、薬局、金融機関、理髪店、スーパー、飲食店にポスターの掲示をお願いした。秋田市内の医療機関や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターに対しては、デイサービスの利用空き情報、送迎範囲地域を改めて伝え情報提供を行った。

令和6年5月から新規に「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を導入。機能訓練プログラムソフトにはプログラムが約40種類収録し、生活課題に合わせた機能訓練が実現可能となった。訓練については、モニターを通し機能訓練指導員と一緒に身体を動かすことができた。利用者全体で行う時や、小グループ化で行うなどゲーム感覚で楽しめることも出来た。また、ご利用者毎に訓練の実績レポートを作成し、ご家族や居宅介護支援事業所には実績評価としてレポート提出している。担当ケアマネジャーやご家族からは、レポートの見やすさと訓練の実施回数を確認できるため喜ばれていた。

苑内のアクティビティについては、季節に合った行事の開催や毎日多彩な内容でご利用者の皆様に楽しんで頂いた。外部の演芸慰問、ボランティアは、定期的に介護支援ボランティアの受け入れや秋田市内で活動している演芸団体等へ依頼をするなど調整を図ってきた。昨年より雄和地域の保育所との交流も再開し、子供たちの演技に涙しているご利用者もいた。今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い楽しんで頂くように努めていきたい。

主な重点事項に対する評価として

【重点事項】

（1）運営基盤の強化

令和6年5月から新規に「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を導入。モフトレの内容が分かるように緑水苑の広告を新たに作り直し、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターに渉外活動を行った。デイサービスの利用空き情報や体験利用枠、送迎範囲地域を伝え情報提供を行った。また、雄和地域の理容室や商店、病院、薬局、金融機関にポスターの掲示をお願いした。

在宅サービス担当者会議においては、複数回の利用の提案や行事の際にお誘いするなど利用を進めた。ご利用者、ご家族の要望や事情等を踏まえ、代替日を設けるなど定期外サービス利用に繋げるなどの対応も行った。今年度は新規契約締結が21名、体験利用者が12名受け入れた。その内8名が利用に繋がった。しかし、今まで複数

回ご利用頂いていた方が、疾病、入院、入所、ショートステイ利用等により利用休止をせざる得ない方もおり登録者数が伸びなかった。また、1日平均24人以上の目標値も達成は出来なかった。

(2) ご利用者一人ひとりのニーズに対応したサービス提供

ご家族、ご利用者の要望に応じて早めの受け入れや短時間での送迎、ご希望の時間に合わせた送迎を行った。

日々の身体状況を確認しながら職員間で情報共有し、安全に過ごしてもらえるように支援した。

(3) 在宅での日常生活機能向上に向けた個別機能訓練の実施

令和6年5月から新規に「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を導入した。訓練については、モニターを通し機能訓練指導員と一緒に身体を動かすことができた。利用者全体で行う時や、小グループ化で行うなどゲーム感覚で楽しめることが出来た。利用者毎に訓練の実績レポートを作成し、ご家族や居宅介護支援事業所には実績評価としてレポート提出した。担当ケアマネジャーやご家族からは、レポートの見やすさと訓練の実施回数を確認できるために喜ばれていた。

訓練以外にも、カラオケ機材にプログラムされている歌謡曲に合わせた体操を実施している。馴染みのある歌に合わせてため、楽しみながら行うことができた。

個別機能訓練計画書は、日常の生活課題をアセスメントし定期的に作成、評価をすることができた。

(4) ご利用者に寄り添う姿勢と相手を尊重した接遇に努める。

ご利用時には心身の状態やご家庭のことも含め相談等に応じている。相談内容等については担当ケアマネジャーへ報告し情報の共有を図った。接遇については、必ずしも相手を尊重した言動や態度でない部分が見受けられる。職員会議を通し職員にはお客様意識を持ち接するよう指導した。

ご利用者はデイサービスに来るのを楽しみにされている。その為、何度も通いたいと思ってもらえるよう、今後も努めて行きたい。

(5) 非常事態の危機管理に努める

今年度も年2回の避難訓練を実施した。8月の訓練は職員のみで火災時の基本を講義形式で行った。12月の訓練では地震発生から火災による避難誘導等を項目別に分け、全職員がどの役割を担っても対応できるようにした。時間計測を気にせず内容を確認出来た。

自治会との協力体制ということで、水沢及び平沢地区の自治会長に総合避難訓練の内容を見て頂き、訓練への助言を頂いた。緑水苑の実情や課題等の情報の共有を図ることが出来た。

(6) 感染症予防

新型コロナウイルス感染拡大防止のためご家族には文書を配布し、感染防止に向けたご理解とご協力を求めた。ご利用者にはご家庭での検温、マスクの着用を勧め体調管理に努めてもらった。送迎時には手指のアルコール消毒、車内の換気、送迎後には車内の消毒を行った。来苑時にも手指消毒の実施、検温、定期的な換気、加湿管理、

物品消毒にも努めた。苑内でも常時マスクの着用をお願いした。

5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ少しづつ日常生活が戻ってきたが、コロナウイルスが無くなったわけではなくご本人やご家族で感染の報告を頂いた。インフルエンザが流行すると報道であったが、当苑においては新型コロナウイルスやインフルエンザ等による集団感染はなかった。

(7) アクティビティ計画（心身活性化のための活動）の評価

テーブル上でパズルや塗り絵、間違え探し、線繋ぎ等の各種様々な脳トレ作業を用意している。また、グループ毎や全体で取り組む活動も行っており、日常生活の機能向上に繋がる多彩なプログラムを取り入れご利用者の皆様方に楽しんで頂いた。

苑内の行事では春、秋の外出、運動会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、忘年会、節分、ひな祭り会の季節行事を開催。その他にも演芸ボランティアの受け入れを毎月行った。

雄和地域の保育所との交流は、コロナウイルス感染症が5類に引き下がってからも保育所側での集団感染を懸念し、来苑が難しい状況ではあった。保育所と日程調整の協議を重ね、9月に雄和中央保育所の園児による演芸慰問を開催することができた。園児には歌や踊りを披露してもらい、ご利用者からは笑顔と喜びの涙が見られた。

今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い、楽しんで頂くように努めていきたい。

1. 令和6年度利用状況（定員30名 月～金曜日営業）

	要介護度別利用者数（延人数）							利用者数(人)	1日平均(人)	営業日数	稼働率(%)
	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5				
4月	18	33	124	202	61	27	0	465	21.1	22	70.3
5月	17	38	151	217	58	25	0	506	22.0	23	73.3
6月	17	29	125	182	46	26	0	425	21.3	20	71.0
7月	21	29	142	211	43	23	0	469	20.4	23	68.0
8月	13	24	136	209	28	24	0	434	19.7	22	65.7
9月	18	23	123	193	30	8	0	395	18.8	21	62.7
10月	16	30	127	200	41	12	8	434	18.9	23	63.0
11月	15	25	125	195	38	11	4	413	19.7	21	65.7
12月	14	19	120	184	41	12	0	390	18.6	21	62.0
1月	12	28	113	167	37	14	0	371	18.6	20	62.0
2月	11	31	114	187	35	12	0	390	19.5	20	65.0
3月	17	31	118	190	40	12	0	443	19.4	21	64.7
合計	189	340	1,518	2,334	498	206	12	5,100	19.8	257	66.0

2 新規契約件数

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	3	3	0	0	0	2	2	3	0	0	1	12

(参考 R3年度24件 R4年度16件 R5年度23件)

3 体験利用者

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	1	2	1	2	1	1	0	2	2	1	1	12

(参考 R3年度年4件 R4年度年1件 R5年度12件)

4 個別機能訓練加算 I (イ) (56 単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
132	142	137	173	112	148	158	191	158	211	116	207	1,855

5 個別機能訓練加算 I (ロ) (85 単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
281	309	233	244	285	206	230	182	199	120	232	341	2,862

6 運動器機能向上加算 (225 単位)

単位：回

*令和6年度介護報酬改定により廃止

7 入浴介助加算 (I) (40 単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
405	445	374	411	391	349	385	368	347	325	333	341	4,474

8 送迎減算 (-47 単位)

単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
13	10	14	11	5	4	18	11	8	2	8	6	110

9 地区別実利用者数 (令和7年3月末現在)

単位：人

	川添地区	戸米川地区	種平地区	大正寺地区	他地区 (畑谷)	合計
男性	10	4	1	6	1	22
女性	16	10	4	6	0	36
合計	26	14	5	12	1	58

○平均年齢 88.2歳 最高齢者 98歳 ☆最若齢者 67歳

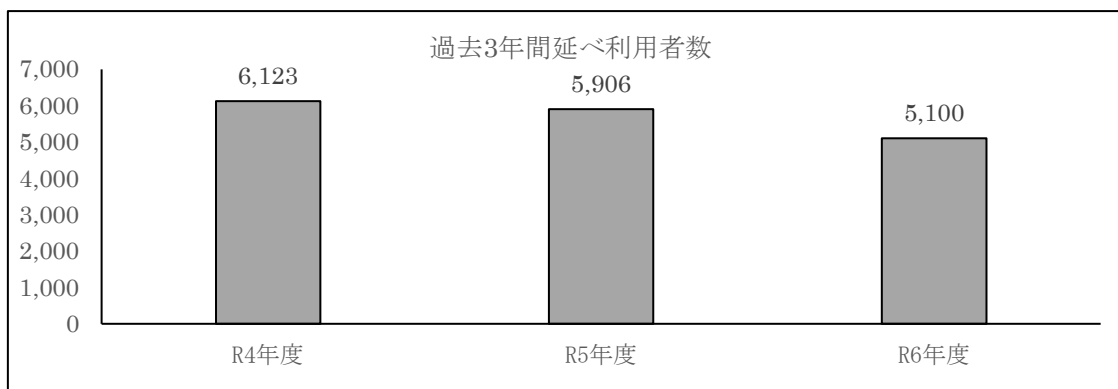
○週間利用回数 (令和7年3月末現在)

介護 1回利用(16名) 2回(23名) 3回以上(11名)

予防 1回利用(6名) 2回(3名)

10 過去3年間延べ利用者数

	R4年度	R5年度	R6年度
延べ利用者数（人）	6,123	5,906	5,100



11 主な行事・アクティビティ活動等の内容

月	行事・アクティビティ活動	今月の歌	実習/ボランティア
4月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	高校三年生・せんせい・東京ラブソティー・はな・きよしのズンドコ節・荒城の月・春の小川・北国の春	フラワーアレンジメント・梅鶯会
	4/15～4/19 春の外出ドライブ		
5月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	高原列車は行く・茶摘み・みかんの花の咲く丘・瀬戸の花嫁・野に咲く花のように・恋する城下町・こいのぼり・浜辺の歌	アニマルセラピー・梅鶯会
	6/25 さなぶり運動会		
6月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	長崎は今日も雨だった・炭坑節・川の流れるように・愛燦燦・有楽町で逢いましょう・あめふり・斉太郎節	
	6/25 さなぶり運動会		
7月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	星影のワルツ・七夕さま・われは海の子・ほたるこい・憧れのハワイ航路・夏の思い出・東京五輪音頭	ちびっこボランティア
	7/3 七夕会		
8月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	異国の丘・夏は来ぬ・星影の小径・二人は若い・東京ラブソディー・孫・上を向いて歩こう・青春のパラダイス・真っ赤な太陽	都美峰会

9月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 9/20 敬老会	十五夜お月さま・旅の夜風・月がとっても青いから・炭坑節・高原列車は行く・見上げてごらん夜の星を・ブルーライトヨコハマ	雄和中央保育園
10月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 10/14～10/18 秋の外出ドライブ	小さい秋見つけた・もみじ・365歩のマーチ・りんどう峠・いつでも夢を・南部牛追い歌・港が見える丘・東京ブギウギ・四季の唄	都美峰会
11月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	真っ赤な秋・いつでも夢を・ふるさと・赤とんぼ・チャンチキおけさ・きよしのズンドコ節・月がとっても青いから・旅愁・里の秋・銀座の恋の物語	梅鶯会
12月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 12/23.24 クリスマス会 12/27 忘年会	雪・いい湯だな・たき火・雪国・北の国から・津軽海峡冬景色・細雪・北風小僧の寒太郎・雪の降る街を・雪山賛歌	梅鶯会
1月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	秋田県民歌・お座敷小唄・雪国・孫・北酒場・雪国・雪中花・冬のリビエラ・風雪ながれ旅	
2月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 2/2 節分	きよしのズンドコ節・お富さん・チャンチキおけさ・知床旅情・雪椿・北酒場・襟裳岬・銀座カンカン娘・越冬つばめ・雪の降る街を	
3月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 3/5・6 ひな祭り	湯島の白梅・王将・高校三年生・粟生山脈・揚げば尊し・いい日旅立ち・リンゴの唄・恋の季節・この広い野原いっぱい・お座敷小唄	

○個別機能訓練

個々の自立した日常生活に繋がるような内容をグループ単位に実施
（転倒予防体操、口腔ケア体操、手指運動、歩行訓練、生活動作訓練等）

12 会議等

- (1) 職員会議（毎月1回実施）
- (2) サービス担当者会議
- (3) 利用者事前訪問

13 各種委員会

- (1) 研修委員会（計2回開催）

年間計画作成等

①【施設内研修】

- 6月28日（金）食中毒の予防と蔓延防止策
- 8月29日（木）高齢者虐待対応事例について
- 10月30日（木）入浴時の事例検討会
- 11月25日（月）感染予防と蔓延防止策
- 12月6日（金）認知症について
- 1月28日（火）緊急時の対応について
- 1月28日（火）入浴介助加算算定に伴う研修会
- 2月27日（木）BCP（事業継続計画）机上型訓練について

②【施設外】（伝達研修）

- 7月19日（金）福祉保健施設・事業所等看護職員研修
- 10月23日（水）雄和圏域介護従事者研修会～任意後見制度の理解を深める
- 10月24日（月）口腔機能加算の算定要件について
- 11月19日（火）雄和福社会衛生委員会主催研修会
- 11月28日（木）施設等相談援助職員研修

- (2) 活動検討委員会（計8回開催）

年間行事や活動計画の策定と実施

- 4月10日～4月23日 春の外出ドライブ
- 6月25日 さなぶり運動会
- 8月1日～8月2日 夏祭り
- 9月20日 敬老会
- 10月14日～10月18日 秋の外出ドライブ
- 12月23日～12月24日 クリスマス会
- 12月27日 忘年会
- 2月3日～2月4日 節分
- 3月5日～3月6日 ひな祭り会

- (3) 保健衛生委員会（計3回開催）

利用者、職員の健康管理と予防対策、食中毒及び感染症予防対策
（インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス、消毒、換気等）

【施設内研修】

- 6月28日（金）食中毒予防勉強会
- 11月25日（月）感染症予防と蔓延防止対策について

(4) 防災対策委員会 (計6回開催)

避難訓練2回実施(うち1回は利用者参加)、避難誘導確認、危険箇所等確認、
暖房機器確認

【訓練】

- 8月29日(木) 総合避難訓練及び地域自治会長との災害時の協力体制会議
- 12月17日(火) 総合避難避難訓練
- 2月27日(木) BCP机上型訓練

(5) サービス改善委員会 (計8回開催)

【施設内研修】

- 8月29日(木) 事例検討 介護施設のリスクマネジメント
- 10月30日(火) 事例検討会 緊急時の対応について

(6) 給食委員会 (計2回開催)

利用者の摂取状況や嗜好調査等の確認や見直し

- 5月23日(木) 令和6年度計画について
- 2月18日(木) 令和6年度反省及び令和7年度計画について

14 介護サービス情報の公表 令和6年11月19日

15 ボランティア受け入れ状況 (年間受け入れ回数 1組)

月	名称(敬称略)	主な内容4
4月	佐藤百合子氏 (4/4. 4/11. 4/18. 4/28)	話し相手・清掃(介護支援ボランティア)
	梅鶯会(4/11)	歌
	秋田ベルコ(4/29)	フラワーアレンジメント
5月	佐藤百合子氏(5/2. 5/16)	話し相手・清掃(介護支援ボランティア)
	梅鶯会(5/17)	歌
	愛犬訓練所ドックセラピー 山岡(5/23)	アニマルセラピー
7月	ちびっこボランティア (7/25)	会話・福祉用具体験
8月	プルメリア(8/1)	フラダンス
9月	雄和中央保育所(9/18)	歌・踊り・プレゼント寄贈
10月	都美峰会(10/22)	歌・踊り
11月	梅鶯会(11/14)	歌
12月	梅鶯会(12/10) 桜雅会(12/23. 24)	歌・踊り

花の家訪問介護事業所（第一号訪問介護）

【総括】

訪問介護事業は「長年暮らし続けた地域で老後を」という願いを受けて、各家庭を訪問して身体介護や生活援助を行い在宅での暮らしを支援している。

さて、令和6年度の特徴として河辺地区の河辺荘訪問介護事業所が廃止。さらに秋田市社会福祉協議会の訪問介護事業所も廃止となったことにより当事業所に訪問依頼がきた。依頼のあった利用者のお大半は要支援の方だったが、雄和地区の利用者減少の中での依頼は幸いであった。これらの事業所廃止の理由は3つほどあり、まず今年度の介護報酬改定では、訪問介護の基本単価が下がった。2つ目は移動際の車輛の燃料費高騰。3つ目は訪問介護員が高齢になり新人募集にも人が集まらず人材不足等々の理由と聞く。これは私達も同じ課題を抱えており事業継続の難しさである。

今年度の利用者人数の動向について要介護者数は4月に30人だったが、年度末には24人に減少。逆に要支援者は9人から14人へ増加。前年同様の訪問時間だったが、要介護者は減少、要支援が増えたものの合計時間を伸ばすまでにはいかなかった。訪問介護員1名新規採用したが残念ながら退職。採用募集しているが応募もなく、欠員補充出来ないまま年度末まで目一杯の稼働をした。

訪問する際に注意したことは、新型コロナウイルスが収まったとはいえ、引き続き感染予防対策を取り、マスク着用、うがい、手洗い、予防衣着用に努め、感染しない及び他にウィルスを持ち込まないなど徹して行い、職員の罹患はなかった。

また訪問介護事業の基本に則り、各自が個別援助計画をよく把握し、丁寧かつ安全を重視しながら援助に当たった。特に安全面では、今年度から義務化されたBCP対応については緊急時対応マニュアル作成とその周知を図った。

これらの研修を重ねながら、訪問後の援助報告は必ず行い反省と検討を行った。

事業経営は厳しい状況だが、私たちは利用者さんの気持ちに寄り添いその尊厳を忘れることなく援助を続けていく。

1 介護度別利用者数（人） 平均年齢 84.35歳

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
要介護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	14	13	11	12	14	15	17	16	16	14	14	14	170
要介護1	16	14	13	12	10	9	8	8	10	10	9	9	128
要支援 1・2	9	10	8	8	9	11	11	11	13	12	14	14	130
計	39	37	32	32	33	35	36	35	39	37	38	38	431

2 家族構成別利用者数 (人)

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
独居世帯	27	27	24	24	24	26	26	26	30	29	30	30	29.91
夫婦世帯	5	5	3	3	3	4	4	4	3	4	4	5	3.91
同居家族	7	5	5	5	5	5	6	5	6	4	4	3	5.00
計	39	37	32	32	33	35	36	35	39	37	38	38	35.91

3 介護度別 訪問時間 (単位：時間)

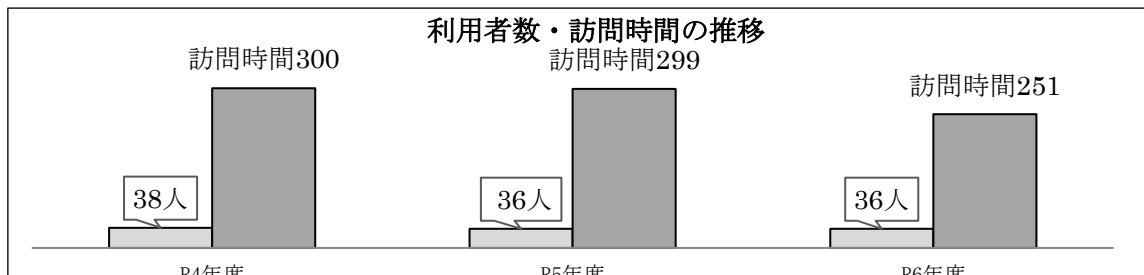
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
要介護 5	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
要介護 4	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	1:00	1:00	1:00	0:15
要介護 3	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
要介護 2	99:10	92:48	71:51	89:17	103:19	116:50	157:17	142:21	134:21	127:49	121:50	123:48	115:03
要介護 1	128:55	117:40	100:20	104:50	78:40	62:50	59:50	58:10	69:20	56:50	56:50	57:20	79:17
小計	228:05	210:28	172:11	194:07	181:59	179:40	217:07	200:21	203:41	185:39	179:40	182:08	194:36
支援 1・2	51:51	56:53	44:52	49:51	46:53	51:50	61:47	51:50	57:48	62:48	73:32	70:30	56:42
計	279:56	267:21	217:03	243:58	228:52	231:30	278:55	252:21	261:29	253:27	263:42	257:38	251:18

4 活動区分別訪問時間 (単位：時間)

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
身体 介護	28:05	24:30	17:00	20:30	18:30	19:00	31:30	29:30	33:00	35:00	30:00	28:00	26:12
身体 生活	63:21	48:57	44:00	56:30	55:30	53:30	60:30	56:00	47:30	52:30	56:00	48:00	53:31
生活 援助	136:39	137:01	111:11	117:07	107:59	107:10	125:08	115:01	123:11	103:09	104:10	108:08	116:19
総合 事業	51:51	56:53	44:52	49:51	46:53	51:50	61:47	51:50	57:48	62:48	73:32	70:30	56:42

5 利用者数推移（人）と訪問時間の推移（年間平均時間）

年度	R4年度	R5年度	R6年度
人数	38	36	36
時間数	300	299	251



6 職員会議、事業所内研修会

4月	・倫理及び法令遵守 ・苦情報告、解決に向けて ・排泄介助方法
5月	・訪問介護員の接遇 ・介護予防サービスの対応 ・援助の仕方 ・洗濯、掃除など援助方法
6月	・事故発生予防、再発予防について ・事故発生等、緊急時の対応 ・安全な入浴介助方法 ・糖尿病の調理
7月	・感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止 ・管理者、責任者、訪問介護員役割 ・飲み込み、むせない食べさせ方の研修
8月	・現任研修 認知症対応他 ・サービス提供責任者不在の緊急時対応 ・介護マニュアルの見直し ・車椅子など移動の介助方法
9月	・自己評価の検討会 ・ヘルパーが訪問出来なかった時の対応 ・従業員法令遵守
10月	・経営改善（利用者の意向、満足度検討） ・事業所の改善課題について
11月	・サービスの質についての自己評価 ・高齢者の食事づくり
12月	・従業者からの相談、意見、苦情対応 ・プライバシー保護
1月	・現任研修 ・教育計画
2月	・介護マニュアルの見直し ・認知症対応
3月	・介護計画書、アセスメント（担当確認） ・事業者全体のサービス内容を検討

7 実習受入

なし

8 その他

介護サービス情報の公表

令和6年11月26日

花の家居宅介護支援事業所

【総括】

令和6年4月から介護保険法改正により「特定事業所加算の見直し」について、全区分の単位数が14単位増となり、ヤングケアラーや、障がい者などの他制度に関する研修への参加要件が追加された。多くの居宅介護支援のケアマネジャーが期待していた、処遇改善関連加算の創設が今回も実現されることはなく、プラス改定の方で素直に喜べる中身ではなかった。また、「業務継続計画（BCP）未作成に対する減算の導入」「高齢者虐待防止の推進」「身体拘束等の適正化の推進」「テレワークの取扱いの明確化」等が義務化として明文化された。業務の簡素化を謳う一方で、義務化する部分が増え、業務量が增大している。今後、ケアマネジャーの処遇改善を実現するためには、ケアマネジメントの質を確保した上での生産性向上が大きなポイントとなると考える。介護予防支援事業所の指定を受けることで、報酬増を見込み、法人および地域貢献を目指したい。

令和6年度の要介護者のケアプラン作成数では月平均150件を目標としていたが、131.5件と目標未達成。要支援の作成数は173件と昨年より21件増えた。

この一年で新規利用者件数では昨年より1件少ない53件。新規件数はほぼ横ばいも、要介護者の総件数は1,578件と、昨年度より132件少なくなり、要支援件数が21件増加した。今年は事業所内ケアマネジャーが4人体制となり、新規要介護利用者件数は減少も1人当たりの平均件数は33.7件と増加している。在宅サービスより施設利用のニーズが高い昨今ではあるが、苦しい方の苦しい時の一助になれる居宅介護支援事業所で在りたい。

介護サービスの最新情報を得るために、多職種間との連携を密にすると共に、他居宅介護支援事業所との横の繋がりも強化していきたい。

【重点事項】

（1）居宅サービス計画の作成

ご利用者及びご家族の意向を尊重し、サービス計画の作成を行った。サービス担当者会議の開催は介護認定の新規及び更新・区分変更又はサービスの変更時等に都度行った。

（2）介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の受託

包括支援センターから業務受託を受け、介護予防、生活支援サービス事業等の利用について介護予防サービス支援計画の作成に努めた。

（3）関係機関との連携の強化

ご利用者及びご家族に対して保険、医療、福祉についての情報提供を行う。医療連携では利用者の体調相談で、本人の通院に同行、ケアマネがクリニックに訪問や書面でも相談を行った。入院時の情報連携も行っている。感染症対策で病院の対応も都度変更はあったが支障なく対応することは出来た。事業所等とも情報共有しサービス提供のため連絡調整を行った。

（4）職場研修の充実

各介護支援専門員の目標に沿った研修に参加した。外部研修も新型コロナウイルス

感染症発生以降は、多くの研修がオンライン形式での開催が通常となった。事業所内研修は毎月の職員会議で研修計画に沿って実施することが出来た。

1 年間計画作成数

	年間合計	前年比	備考
延べ利用者数（要介護）	1,578 人	132 人減	月平均 131.5 件
延べ利用者数（要支援）	173 人	21 人増	月平均 14.4 件

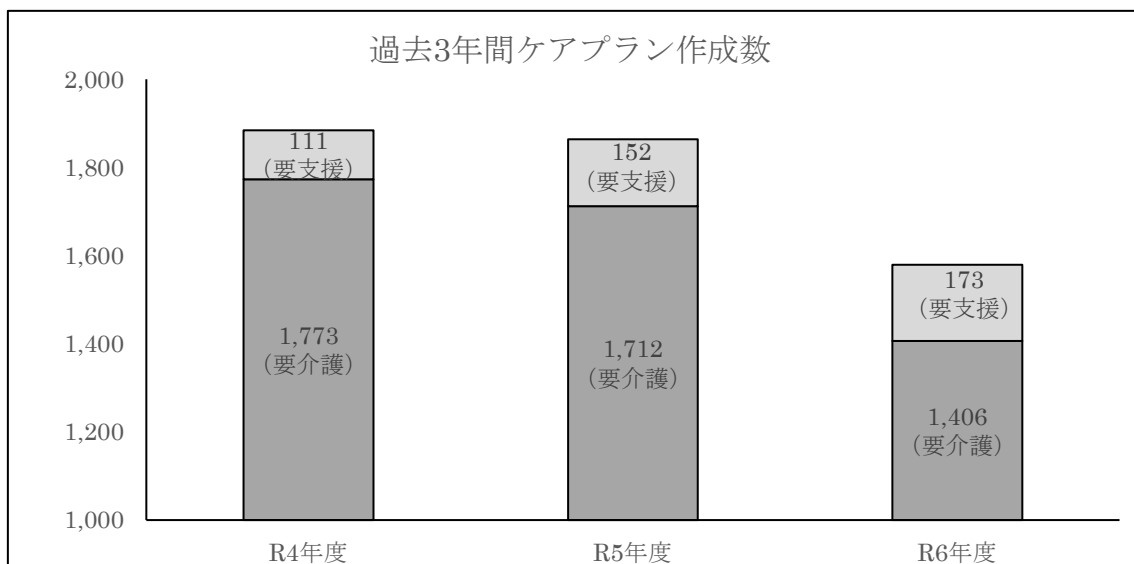
2 要介護度別利用状況

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用人数 (延人数)	50	123	651	480	208	169	70	1,751
比率 (%)	3%	7%	37.1%	27.4%	11.9%	9.6%	4%	

3 年間計画作成数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度	151 (6)	155 (8)	149 (8)	154 (8)	163 (9)	172 (11)	165 (10)	164 (12)	157 (10)	157 (9)	151 (10)	146 (10)	1,884 (111)
R5年度	160 (13)	163 (11)	160 (11)	159 (11)	150 (11)	162 (14)	151 (13)	145 (14)	148 (14)	152 (13)	160 (14)	154 (14)	1,864 (152)
R6年度	133 (11)	139 (12)	129 (12)	128 (12)	130 (12)	138 (13)	133 (14)	131 (15)	132 (17)	133 (17)	125 (19)	128 (19)	1,579 (173)

*総作成数うち（介護予防数）



4 会議、研修等

- (1) 職員会議（毎月1回開催）
 - ・請求実績、業務実績、連絡確認事項、ケース検討、研修復命、事業内研修
- (2) 利用者に関する検討及び伝達（毎朝開催）
 - ・利用者に関する情報またはサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達
- (3) サービス担当者会議（担当者が随時開催）
 - ・年間実績 239件
 - ・サービス事業所との連携、サービス内容の確認と検討
- (4) 委員会（随時開催）
 - ・他事業所と連携しながら活動
- (5) 研修
 - ・事業所内研修 8回
 - ・施設外研修復命報告等 10回
 - ・更新研修～主任介護支援専門員更新研修
介護支援専門員更新研修
- (6) 合同事例検討会
 - ・令和6年4月24日
参加事業所～御野場病院在宅ケアセンター・御所野の森居宅
 - ・令和6年7月19日及び令和6年11月12日
参加事業所～河辺荘居宅、サポートセンターおぐら、河辺社協

5 その他

介護サービス情報の公表 令和6年11月11日

雄和地域包括支援センター緑水苑

【総括】

令和6年度も事業計画に基づき生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員とも連携し地域住民への健康講話、出前講座やワークショップ、介護支援専門員や福祉職のスキルアップのための研修、勉強会、他職種連携、顔の見える関係を構築する会議等も計画通りに行っている。また一人暮らしの方への個別訪問も従来通り行い、後日相談が来るなど包括支援センターの役割、周知にもつながっている。

雄和地域包括支援センターは今後も与えられた業務を丁寧に行い、職員自身の援助技術や幅広い知識を身に付け、総合的な判断力を養い、高齢者や地域の方が住み慣れた地域で自分らしい生活が継続できるように役割を果たしていく。

総合相談支援業務

相談件数は316件で昨年の420件から減っている。相談内容は1度～2度の対応で解決は難しく時間のかかるケースが多い。昨年度の相談も引き続き対応している。相談内容は介護保険、認知症のこと（症状、医療）の相談は多い

介護予防ケアマネジメント業務

介護予防として、はつらつくらぶ、老人クラブ、民生委員を対象にリハ職を活用したフレイル予防なども行った。自主サロンに対し出前講座を行う。

介護予防プラン作成は（要支援1、2）今年度934件（委託を含む）で昨年より7件減で目標の80件には届いていない（平均77.8件）が大きな減少もなく経過している。

権利擁護業務

権利擁護については成年後見制度、消費者被害、困難事例の3件に対応した。また、雄和圏域介護サービス事業所を対象に研修会（「虐待について」「成年後見制度を知ろう」）を今年度も継続した。また、一般の方の方や福祉職を対象に南圏域包括社会福祉士が企画した「南圏域シルバーセーフティ研修会」を警察の方とも連携し各包括の3地域で開催した。居宅介護支援事業所との勉強会では「法テラス制度の紹介と活用法」と題し行う。その他にも昨年に引き続き認知症地域支援推進員と連携し、はつらつくらぶ、自主サロン、老人クラブ等に「認知症について・人生会議」の講話も行う。

包括的・継続的マネジメント業務

年度当初に年間計画書を圏域の居宅介護支援事業所に配布し、事業計画に盛り込めるようにしたり、他圏域の包括と協力し「しゃべこみカフェ」（ケアマネカフェ）を年4回開催し、ケアマネジャー同士の意見交換の場を設けた。その他に多職種連携の地域ケアネットワーク会議や南圏域包括主催の南部ケアマネ連絡会を行っている。また認知症地域支援推進員と共に、「秋田東警察署管内さがしてネットワーク会議」や声かけ通報訓練も行い、社会資源情報の収集や互いの関係作り、情報共有、顔の見える関係作りを行なっている

【食の自立支援事業】

独居、高齢者世帯に向けた「食の自立支援」事業（配食）は現在（R7/4）17名の方が利用されている。（17名中男性が9名で夫婦が2組、高齢世帯1組）

1回の配達は5食～10食と曜日により異なる。利用前に「お試し利用」を行うことで、配食の手続きを行ってから利用を中止する人が減っている。利用者の安否確認や調理負担の軽減に役立っている。

【郊外型はつらつくらぶ】

今年度も6ヶ所の会場で月8回開催した。利用者は47名（昨年より5名減）男性6名（2名減）女性41名（3名減）の方が運動や脳トレなど様々なプログラムに取り組んだ。

参加者の高齢化や認知症の発症などもあり、参加者は減っているが利用者の世代が代わったことで利用者が増えている会場もある。「知り合いから誘われて参加する」が利用継続につながっている。しかし、数年続けても利用者が多くて5名、少ないと1名で平均4名という会場がある。R7年度は郊外型はつらつくらぶ事業が廃止となるため、その会場での開催はやめて他の会場に参加していただく予定である。

【高齢者生活支援体制整備事業】

生活支援コーディネーターを中心に活動してきた事業も9年が経過した。居場所や仲間づくりを企画してきた。R4年度から活動している「雄和ボランティアの会」は利用者が固定しているが活動が途切れることなく行われている。担い手の方は17名で、登録者の方は9名で、利用された方は8名である。

男性の居場所と考えて企画していた「酒を嗜む会」の開催はなかったが「健康麻雀」はR6年2月から再開し12名～16名の参加で毎月開催している。

映画サロンは毎回40名～50名の参加がある。

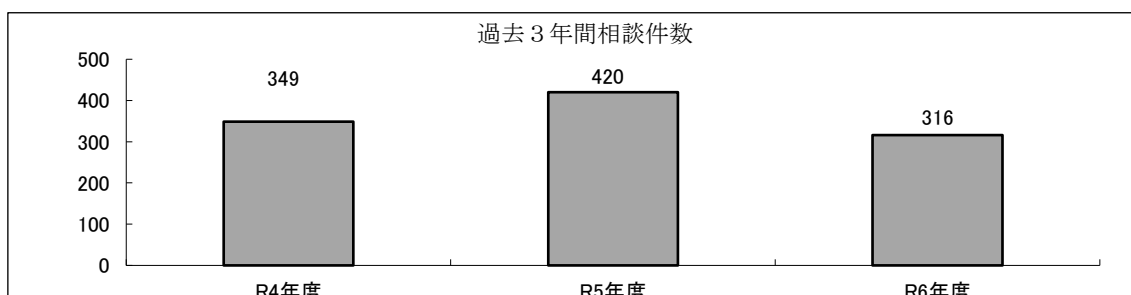
【認知症地域支援・ケア向上事業】

一人暮らしの方の訪問と見守り訪問、認知症に関する相談窓口として様々な研修等に参加し資質の向上に努めた。包括支援センター職員と連携し地域住民に対し認知症に関する知識の普及、予防や啓発活動、勉強会をおこなった。

1 総合相談支援

(1) 相談件数

	R4年度	R5年度	R6年度
合計	349	420	316



2 権利擁護

	R4年度	R5年度	R6年度
成年後見制度利用件数	0	0	1
消費者被害件数	0	0	1
困難事例件数	0	0	1
その他件数	0	0	0
合計	0	0	0

(虐待又は虐待の疑い)

- ・令和6年度 新規 3件 継続 0件
- ・令和5年度 新規 0件 継続 0件

3 地域包括ケア会議

	R4年度	R5年度	R6年度
開催回数	4	5	3

個別ケア会議 1回

地域ケアネットワーク会議 2回

地域ケア会議 0回

4 高齢者福祉サービス等申請代行、地域連携・他職種連携など

	R4年度	R5年度	R6年度
①高齢者福祉サービス等申請代行件数	111	113	108
②地域連携・他職種連携など件数	17	17	15

①緊急通報システム、食の自立支援、介護申請ほか

②民生委員など会合ほか

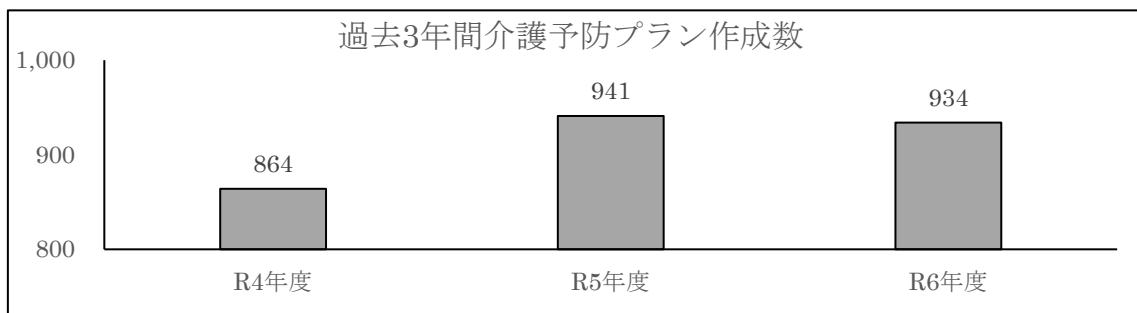
(1) 研修会、地域連携など内容

- ・3職種情報交換会、包括/在介連絡協議会研修会、他各種研修会(オンライン有)
- ・自主活動グループ講座・はつらつくらぶ出前講座・老人クラブ出前講座
- ・雄和地区社協への協力(生き活きの集い:独居者対象事業)
- ・民生児童委員定例会(年7回参加)
- ・福祉懇談会
- ・グループホーム運営推進会議(つばき苑、赤とんぼ)
- ・小規模多機能型施設運営推進会議(えがお)
- ・しゃべこみカフェ(河辺・雄和ケアマネジャー情報交換会)年4回

5 介護予防プラン作成件数（要支援1、要支援2）

*R4年度 委託事業所は10事業所

	R4年度	R5年度	R6年度
①プラン作成（延）件数	864	941	934
②プラン作成月平均件数	72.0	78.4	77.8
③プラン委託月平均件数	26.9	26.9	24.3
③総合事業件数	329	339	331



6 郊外型はつらつくらぶ（月8回開催・6ヶ所）

- ・利用者実人数 47名（内男性6名 女性41名）
- ・令和6年度延べ利用人数 898名（前年度 980名）

7 食の自立支援（配食サービス・週3回まで）

*利用者負担 650円 秋田市委託料 210円（週4回から自費 700円）

（1）令和6年度月別配食サービス実績

- ・利用人数は 16人（R7.3月時点）
- 自費利用も含め複数回利用の方が増えている。

（2）過去3年間配食サービス実績

	R4年度	R5年度	R6年度
延食数	1,725	2,174	1,996

8 高齢者生活体制整備事業（生活支援コーディネーター）

（1）アウトリーチ・ネットワークの構築（高齢者の居場所や見守り体制の構築）

①オープンガーデン

- ・花壇等への植付け、草取り、交流会、花壇見学会、花の撤去作業、オープンガーデン反省会等 延参加者 24名（R5年度 27名）

②ウォーキング

- ・月1回 6回実施 延参加者 63名（R5年度 延参加者 73名）

③カラオケサロン

- ・R6年度 開催実績なし。

④健康麻雀 11回実施 延参加者 148名（R5年度 2回開催 延参加者 32名）

⑤酒を嗜む会 開催なし（R1年度 3回 30名）

⑥ペタンク 第1、第3月曜日 延参加者94名 (R4年度 延参加者48名)

⑦協議体委員会 (雄和地区各種団体から構成、計12名)

- ・年4回開催 関係機関とのネットワークを図る

⑧陶芸教室 (いやしろち窯)

- ・R6年6月開催 延参加者30名 R5年度開催なし
(R4年度 延参加者48名)

⑨映画サロン「銀幕のしらべ」

- ・R6年度12回実施 延参加者414名 (R5年度 12回 延参加者511名)
銀幕カフェ 中止

(2) 地域資源の把握や創出 (地域住民により地元資源を探り出す)

①ワークショップ

- ・開催なし

(3) 地域づくりの意識の統一 (地域が一体になり意識の統一を図る)

①PR用広報誌発行

- ・ささえあいだより 年2回発行 (1月、3月) 雄和地区全戸配布

(4) その他 (他圏域地域包括支援センターとの情報交換会及び研修会等)

- ・生活支援コーディネーター情報交換会
- ・秋田市ささえあい活動推進ネットワーク会議
- ・南、西圏域コーディネーター意見交換会
- ・生活支援コーディネーター研修会